

国語科学習指導案

5年2組 29名 指導者 岡留真吾

本授業では、以下の検証を行うものである。

話し手を意識した「きき方」の指導を体系的に行うことで、子どもが「話すこと」における4つの課題の大切さをより自覚化し、主体的に表現しようとする態度を身に付けることができたか。

- 1 単元 「きくこと」について考えよう 「きいて、きいて、きいてみよう」
 2 目標 話し手の意図を捉えながらきき、自分の意見と比べて考えをまとめることができるようにする。

3 単元の評価規準

- 目的や状況に応じた「きく」という行為について、その違いや気を付けるべきことなどを考えようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- 収集した情報を関連付け、目的や意図に応じて構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話している。
- インタビューの目的意識をもち、話し手の答えからさらに掘り下げて話をきき出したり、きいた話の内容などを記録者の報告と比べ、自分の考えをまとめたりしている。 【話す・聞く能力】
- 簡単な敬語や敬体の言い回しを適切に用いている。 【言語についての知識・理解・技能】

4 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、話し手、きき手、記録者の3人1組となってインタビュー活動を行わせる。インタビューをするときの「きく」、インタビューをされるときの「きく」、やり取りを記録するときの「きく」、発表をきくときの「きく」を全員に経験させ、それぞれの役割で行った「きく」活動の違いやポイントをとらえ、今後の各教科等の学習に活用できるようにすることをねらいとしている。

教材「きいて、きいて、きいてみよう」は、活動の進め方、2人のインタビュー内容、記録者のメモや発表用メモなどのポイントが示されており、子どもたちが主体的に学習に取り組めるようになっている。

子どもたちは、第3学年『『分類』ということ』で、インタビューをする際の基本的な約束事を、第4学年「伝言はまちがえずに」で、大事なことを落とさずに話したり聞いたりする学習を経験してきた。

本単元では、これまでの学習経験を生かしながら、目的意識をもってインタビューの活動を行わせたい。きき手には、特に話し手の魅力をより引き出すという目的意識をもたせた上で、相手の答えに応じて、一歩踏み込んだ質問の仕方や親和的な雰囲気を作り出すあいづちの打ち方を身に付けさせたい。話し手には、きき手がどのような情報を知りたいのか意図を考えながらきき、質問してきた内容だけでなく関連した情報も提供し、きき手がより掘り下げて質問できるような対話の流れを作り出すことができるようにさせたい。また、自分がとらえた話の内容と話し手の印象を記録者の発表と比べ、自分の感想を述べさせることで、相手と自分の考えを比べてきくことの大切さに気付かせたい。そのような活動を通して、12の「きき上手」のポイントをまとめさせ、今後の各教科等の授業で活用できるようにさせたい。ここでの学習は、特に2学期単元「自分の考えをまとめて、討論しよう」での「互いの考えについて質問したり、意見を交わしたりする」学習に密接につながっていく。

(2) 子どもの実態と指導

話すことに関するアンケートでは、全ての子どもが「相手によく分かるように話したい。」という願いをもっている。また、実態調査から中学年までに身に付けておくべき「話すこと」における基礎的・基本的な知識・技能もおおよそ身に付いているといえる。また、きくことについては、「しゃべらずに静かにして」「姿勢を良くして相手を見て」など、きく態度、相手への配慮などに気を付けていると答えた子どもはほとんどである。しかし、子どもの学習の様子を見ると、主体的に発表して互いの考えを深め合ったり、しっかりきき取ろうと思考を働かせてきいたりする力は、まだ十分であるとは言えない。このような子どもの実態からも相手の意図を考えながらきいたり、相手の話を自分の考えと比べながらきいたりするなど、積極的にきく力を段階的に育てていきたい。

5 指導計画（総時数4時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1 子どもが「学校の中で一番話し上手だと思う先生」のメッセージビデオを視聴し、「きく」ことに関する課題を見付ける。	0.5
	2 学習のめあてを決め、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">インタビュー活動を通して、「きき上手」のポイントを見付けよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">どんな内容をどのような形態でききながら学習を進めるのかを協議させる。そして、「あなたのちよっぴり自慢〇〇」というテーマでお互いのよさをもっとよく知るために、インタビュー活動を行っていき必要性を感じ取らせるようにする。</div>	1.5
情報をもとに考える	3 モデルを視聴し、4つの「きく」行為におけるポイントを見付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">モデルとなるインタビュー活動や感想発表会のVTRとインタビューの全容とメモ、メモと発表用メモを対比させたワークシートを準備し、インタビューを行う際のポイントだけでなく、記録者のメモの仕方と発表用メモの構成の工夫を見付けやすいようにする。さらに、3人1組となりインタビューの相手の下調べを行い、簡単なインタビュー進行表を作る。</div>	1 (本時)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">【話：4つの「きく」行為におけるそれぞれのポイントを見付けている。】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">【話：話し手の答えを予想して、更に掘り下げた質問を考えるなど、簡単なインタビュー進行表を作成している。】</div>	
主体的に表現する	5 インタビュー活動を行い、記録者の報告を基にそれぞれの立場で感想を述べ合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">話し手の「よいきき方」に重点を置いて指導する。「相手がどんな情報を求めているのか。それを受けて、どのように答えたらよいか。」を考えさせ、親和的な雰囲気の中でインタビュー活動ができるようにさせる。また、インタビュー活動をビデオで録画し、感想発表会の際に再確認できるようにしておく。</div>	1 (本時)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">【話：インタビューの目的意識をもち、話し手の答えからさらに掘り下げて話をきき出したり、記録者は、話し手の人柄や考え方が伝わるように話の内容を再構成したりしている。】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">【話：きいた話の内容などを記録者の報告と比べ、自分の感想を述べている。】</div>	
振り返る	6 残り2人の報告を聞き、感想発表会の続きを行う。	1
	7 それぞれの役割で行った「きく」について振り返り、今後の各教科等の学習で活用できる「きき上手の」ポイントをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">【関：目的や状況に応じた「きく」という行為について、その違いや気を付けるべきことなどを考えようとしている。】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">【話：表現様式を意識してきくことや12の「きき上手」のポイントをまとめている。】</div>	

6 本 時（3/4）

(1) 目 標

親和的な雰囲気の中でインタビュー活動を行い、記録者の報告を基にそれぞれの立場で感想を述べ合うことができるようにする。

(2) 評価規準

- 4つの「きく」行為のポイントを生かして、意欲的にきいている。【国語への関心・意欲・態度】
- インタビューの目的意識をもち、話し手の答えからさらに掘り下げて話をきき出したり、記録者は、話し手の人柄や考え方が伝わるように話の内容を再構成したりしている。【話す・聞く能力】
- きいた話の内容などを記録者の報告と比べ、自分の感想を述べている。【話す・聞く能力】
- 簡単な敬語や敬体の言い回しを適切に用いている。【言語についての知識・理解・技能】

(3) 指導に当たって

前時まで、インタビューを行う際、きき手の上手な質問の仕方、記録者のメモの取り方、発表用メモの書き方などを身に付けている。本時は、自分がきいたり、話したりした内容などを記録者の報告と比べ、自分の感想を述べるようにすることを指導の重点としたい。そのためには、きき手と記録者のきく観点を十分指導しておくと同時に、相手の魅力をより深く引き出せるようなインタビュー活動そのものを充実させる必要がある。

そこで本時では、親和的な雰囲気の下、充実したインタビュー活動が行えるように、「話し手のよいきき方」に重点を置いて指導する。「質問に対する答えだけを述べるインタビュー」と「質問に対する答えだけでなく、関連する内容を織り交ぜた答え方になっているインタビュー」を比較させ、話し手は、きき手の話の内容だけでなく、意図まで捉えてきくことの大切に気付かせるようにする。

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
5	つかむ	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビューのポイント、メモの取り方、発表用メモの書き方が分かったよ。 先生方の発表会はとても楽しそう。あんな発表会がしてみたいな。 <p>2 学習のめあてと進め方を確かめる。</p> <p>「やってよかったな。」と思える発表会をするには、どんなことに気を付けたらよいだらう。</p>
		<p>5年担任3人が親和的な雰囲気ですインタビューを行い、記録者の報告を基に感想を述べ合い、新たな発見をしたり、互いを認め合ったりしているVTRを視聴し、活動への意欲を高めるとともに、本時のめあてへと焦点化させる。</p> <p>学習の見通しをもち、スムーズに活動を進められるように、前時で見付けたインタビューのポイントを学習ボードで確認させる。</p>
35	見通す	<p>「事前に相手の答えを予想して次の質問を考えておく」、「相手の答えに応じて関連した質問をする」以外にポイントがありそう。</p> <p>3 上手なインタビューと一問一答のインタビューを比べて、ポイントを見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上手なインタビューは、話し手が質問内容に答えるだけでなく、関連した情報も付け加えているから、きき手もききやすいね。 話し手は「あなたの話の内容だけでなく、意図までも理解していますよ。」というのを答えにのせていくことが大事なんだね。
		<p>調べる</p> <p>4 ポイントを生かして3人1組でインタビュー活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し手が話題を広げてくれるから、関連した質問がしやすいな。 昨日準備しておいた質問内容通りではなく、相手の答えに応じたインタビューができた。 <p>5 記録者の立場で発表用メモを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 山田君の努力のことを報告したいから、△△の情報是不必要なので省こう。 山田君の考え方が伝わるように、構成を工夫し、自分の感想や印象も付け加えよう。
		<p>まとめ</p> <p>6 記録者の報告を基に、感想を述べ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 記録者の報告をきいていて、自分は思った以上に努力家なんだと初めて知りました。 相手がきいてくれているという安心感があったし、もっと話したくなっただね。 <p>7 学習の成果を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し手は、質問に答えるだけでなく、関連した情報をおり交ぜて話題を広げる。 自分の思ったことと友達の考えを比べながら聞くと、新しい発見がある。
5	振り返る	<p>8 次時の学習の期待感をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の時間は、それぞれの「きく」ということについてまとめる時間だな。 「きき上手」のポイントをまとめて、他の授業の中でも生かせるようにしたいな。 <p>※ きいた話の内容などを記録者の報告と比べ、自分の感想を述べている。 (活動の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> できているグループには、別の記録者の報告を基に感想発表会を行わせる。 できていないグループには、記録者の発表用メモを見ながら、共感したところや共感できなかったところを教師と一緒に考えるようにする。 <p>感想発表会で話題になったことを取り上げて、これまでの受け身的・消極的「きく」と本時で子どもが身に付けた積極的「きく」の違いを捉えさせる。さらに、本時で身に付けたきき方を12の「きき上手」の観点に加え、今後各教科等の授業でも生かすことができることを伝える。</p>